

歴史的景観の現代的再生

世界遺産と地域計画

◆目的・概要

この授業は立命館大学歴史都市防災研究センターの益田兼房先生、板谷直子先生に講義をお願いしました。

世界遺産の価値や保護の手法、文化遺産を守るための地域計画のあり方や文化の伝承に関する講義、世界遺産古都奈良の文化財の東大寺・興福寺・春日大社の国宝および重要文化財建造物の見学、ワークショップ「世界遺産元興寺のバッファゾーンとしての奈良町のあり方」を通して、地域変革を促すのに必要な、文化に関わる考え方を身につけることを目的としたものです。

◆スケジュール

日程	内容
4月	導入：文化財概念の拡大を考える
5月	見学：東大寺、興福寺、春日大社の見学
6月	講義：世界と日本の世界遺産の現状と課題
7月	ワークショップ：世界遺産元興寺のバッファゾーンとしての奈良町のあり方 発表：住民の方を交えた成果発表 レポートの提出

◆取組成果

ワークショップでは、奈良町セミナーハウスを拠点として、元興寺周辺の地域を歩き、町を読み解く手がかりを探しました。それを採集記録し、これをもとに世界遺産元興寺の周辺地域の特性を抽出し、今後のあり方について提案する実習を行いました。町家のタイプ別分布、格子や虫籠窓など形態意匠、身代わり猿、道路等の公共物など、それぞれにテーマを発見し、町を読む手法のひとつを短期間に身につけました。作品の講評は奈良町セミナーハウスに地域の方々もお迎えして行いました。地域の方々からは、奈良女子大学の学生が地域を理解しようとする取り組みと学生の努力に対して、高い評価をいただきました。

◆今後に向けて

来年度は、更に立命館大学同センターの李明善先生にも加わっていただき、韓国を中心にアジアの文化財についても学びます。

◆関連科目

生活と観光、歴史的町並みの保存・再生実践講座Ⅰ・Ⅱ、ランドスケープデザイン論、建築装備学Ⅰ、環境



東大寺見学



成果発表の様子



学生の作品例